

介護ステーション ぶらんち ニュースレター

Vol. 87

令和6年3月号

あの震災から13年！

あの「東日本大震災」から13年経ちました。
私は、その日、代々木あたりのサッカー用具店で息子と買い物中でした。
その後、歩きながら何とか渋谷まで行き、渋谷駅にて一夜を過ごしました。
13年経った今、東日本のその当時と今の状況をTVで見ると、
まだこの状況なのか・・・と思う部分ともうこんなふうに回復しているんだ・・・と
思える部分と混在している気がしています。

皆様は、どのように感じられていますか。

ただ、「まだ」と「もう」どちらにしても、後退はしていない。

進み方、歩のスピードの違いだけ。

この「後退」していない、はとても素晴らしいことだと、私は思います。

「後退」していない、の裏、水面下には、その個人、家族、仲間、地域、団体、企業、行政など
など、あらゆる方々の努力と日々の葛藤があつてのこと、だからです。

これは、「介護」にも通ずることですよね。

介護も進まない、維持というのは、ちょっともどかしさはあるものの、その裏には、大変なドラマ
がありますから。

この13年目の今年、また、新たな「能登半島大震災」がありました。

いつ何時、自分たちが震災に出会ってしまうか、わからないのが今。

皆さんは震災が起こった、という想定を自身でしていますか。

イメージと備えを今からしませんか、続きは次回で。



介護業界を盛り上げよう！！

介護業界も今「BCP対策」を義務付け

BCP対策とは

「非常事態が発生した際に事業資産の被害を
最小限に抑えつつ、事業を復旧・継続していくための
計画や対策」のことです。

事業資産の被害を最小限に・・・

には、限りないいろいろなことが含まれます。

事業資産の重要なものは、介護は「人」と「機密情報」

「人」は「利用者様」と「スタッフ」です。

利用者様の被害を最小限に抑えるには、
利用者様の状態把握と生活環境把握。
そのためには、どこでも情報をスタッフが確認できる
ようにしておくこと、整理しておくこと、です。

この二つが義務付けられ、全国的に整うと、
「人」を救える確率は上がる。

助けられる命は助きたい。

この想いはみなが持っているだろう心です、
ぜひ、介護業界が医療とは別の視点で
命を支える、救うということを実現し、認知度をあげて
いきたい。

ぶらんちの今を紹介

震災への支援は
弊社としてできることはないだろうか。

そんなことを考えています。

今、考えているのは、二つ。

- ①支援に行かなくて応援できること
- ②その場に行ってできること

②はこれはまだ未定なことですが、
今年の夏くらいになるかと考えていますが、
私が現地へ赴き、現地での支援を手伝う。
その事によって、現地で活躍されている
介護職の方が少しでも休めたら・・・と。

①は、弊社の利用者様で、
「はまぐり」をきれいな布で包んだ作品を
作られていて、それをキーホルダーにして、
現地で不安に過ごされている方々にプレゼント
したらどうだろうか。と計画中。
「はまぐりを布で包む」は日本古来から
縁起のいいもの、ご縁を結ぶもの、
とされています。

また、進展ありましたら、皆様にご報告します。